

令和6年度 一般入学試験問題

国語

注意事項

- 1 問題は1ページから17ページまであります。
- 2 試験時間は50分です。
- 3 試験開始の合図があるまでは、この問題冊子を開いてはいけません。
- 4 試験開始後、この問題冊子のページ不足・印刷の不鮮明などの不備に気づいた場合は、監督者に申し出てください。
- 5 解答はすべて解答用紙に記入してください。
※字数制限のあるもので、句読点などが必要な場合は、すべて字数に含みます。
- 6 解答用紙には、出身中学校名、受験番号、氏名を必ず記入してください。

自由ヶ丘高等学校

—

次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

「推し」の〇〇に出会って人生が変わった！と熱心なファンはよく言います。実際、そのとおりなのだと思います。けれど、「推し」がわりやりあなたの人生を変えたものではありません。あなたの人生が変わったきっかけは「推し」ですが、人生を変えたのはまぎれもなくあなた自身です。そしてそれが、「推し」の真髄です。

人生、というとおおげさかもしれませんが、それまでの自分の生活にはなかった行動や考え方をすることになることは、生き方を変えることだともいえます。自分が熱愛する対象によって、自分から能動的になにかのアクションを起こすようになる。それが、受動的になにかを愛好するようなファンと、なにかを「推し」として熱愛するファンの決定的な違いであると私は考えています。

「推し」を持つファンたちの能動的なアクションには、実にさまざまなものがあります。ファンのアクションは、SNSへコメントしたりファンレターを書いたり、ライブで声援を送りながらペンライトを振るなど、「推し」対象に向かつて直接的になされるものだけとはかぎりません。オリジナルを参照しつつ「推し」の新たな物語を生成したり、「推し」に関係のある別の分野にまで関心を持ったり、「推し」を模したコスプレをしたり、「推し」をかたどったぬいぐるみやフィギュアの写真を撮ったり、「推し」本人不在の誕生日会を開いたりします。この本では「推し」に関わる行動や気持ちの例を端緒として、人間のさまざまな認知活動とプロジェクトという機能の深い関わりについて考えてきました。

「推し」が頑張っている姿を見ると、自分も頑張れる。「推し」のようにするために自分も努力する。「推し」がいるとなんでもない日々でも楽しい。「推し」のつながりで友人や仲間、居場所ができた。つらいことがあっても「推し」から元気がもらえる。「推し」に癒やされる。どれも「推し」がいるという人たちから、よく語られることばかりです。また、「推し」は特いないという人から、「推し」がいる人は楽しそうでうらやましい、自分にも「推し」がいたらいいのと思う、などということもよく聞きます。

どうにかまた頑張ろうとするのも、いっちょやってみるかと努力するのも、目の前にある日常を楽しんで生きるのも、新しい友人を作るのも、それは自分自身です。ただ、自分だけでは動きだせなかったほんの一步を踏みだせるよう、力強く背中を押してくれたのが「推し」なのでしょう。そう考えると、「推し」を推すことは、自分自身の生きる力を推進することだといえます。だからこそ、社会が停滞していると感じられるいまの時代に「推し」が求められ、また「推し」がいる人のエネルギーが羨望さ

れるのかもしれませんが。

プロジェクトを介してなされる「推し活」や「推して推される」という相互作用は、「推し」と自分の境界を曖昧にします。ここまで考えてきたように、ときに「推し」は、自分の表象の投射対象でもあり、自己世界の拡張でもあり、新たに加わった自分の領域でもあり、自分へ逆投射してくる存在でもあります。いずれにしても、自分という代えがたい存在の一部に組み込まれたものとして「推し」をとらえるのなら、「推し」が自分にとってどのようなものなのか、よくわかるのではないでしょう

か。

若手俳優の熱心なファンでもあるライターの横川良明さんの著書に『人類にとって「推し」とは何なのか、イケメン俳優タタの僕が本気出して考えてみた』という本があります。その本の最後に横川さんは、「推し」とは何なのか定義づける必要はない、人それぞれの答えがある、としながら「でももしその前提で、最後に推しとは何かと聞かれたら、僕はこう答えます。推しとは、『お守り』」と書いています。

「推し」は「お守り」であるとは、なるほど！と得心しました。なぜなら、お守りこそプロジェクトのかたまりのようなものだからです。たとえば、神社やお寺のお守り、パワーストーンのブレスレット、十字架のついたロザリオ、家内安全のおふだなど、身近で「お守り」としてありがたがられるものはいろいろあります。しかし、その「意味」がわからない人にとってそれは、すごく小さな布袋、きれいな石のブレスレット、飾りのついたネックレス、文字が書かれた紙切れ、などにすぎません。神社やお寺にあるすごく小さな布袋は、その意味がわかったうえで「信じるころ」が投射され、はじめて「お守り」となります。他もそうです。以前、家の部屋の片隅に小石があったので、子どもの服にでも入っていたのが落ちたのかと思い、外に捨てようとしたら、子どもが気づいて「それ、おまもりなの、捨てないで！」と必死で訴えるのでびつくりしたことがあります（うっかり捨てないで本当に良かった……）。これもプロジェクトです。

「推し」をお守りのようにとらえてみると、そこに投射されているものは「信じるころ」ならぬ、熱心なファンひとりひとりの「X」なのではないでしょうか。人によってそれは、「生きがい」ともいえるかもしれませんが。

「生きがい」だなんて、おおげさに思えますか？ 私は大学では、「老年心理学」といって、高齢者のこころや行動を専門に教育・研究をしています。高齢者にとって「生きがい」は決しておおげさなことではなく、切実で日常的な問題です。日本はいま、世界一の高齢社会です。現在の日本の高齢者は、仕事や子育てなど否応なく求められてきた役割を終えた後にも、長い人生があります。《1》「なんのために生きているのか」など考えるまでもなく生活に追われていた日々はいつか終わり、「なに

をして生きていくのか」を自分で考えなければならぬ日常がやってきます。《2》

しかし、高齢者は試行錯誤しながら、日々の生活のさまざまなことに「生きがい」を見いだしています。《3》実に、高齢者の八割は「生きがい」を持っている、というデータを講義で示すと、大学生は一樣に驚きます。けれど、「生きがい」はおおげさなことでなくていい、身の回りに生きる意味や楽しみは見つけられるのだということが、高齢者の生活を見るとよくわかります。

本書の担当編集さんがこんな話をしてくれました。編集さんのお母さんはわりと快活な人だったそうですが、コロナ禍^かでかなり弱気になってしまいました。「もう人生に楽しいことなどない」とネガティブな発言も多くなり、心配した編集さんは動画配信サービスを入れたタブレットを送ってあげて、観^みるようにすすめました。

《4》そして、韓国ドラマをきっかけに、興味は異国の文化や語学の学習にまで発展し、いずれ韓国に行くことを目標に日々励んでいるとのこと。《5》お母さんにとつて、もうこれはりっぱな「推し活」であり、素晴らしい「生きがい」です。

熱心なファンの「推し活」を見ていると、高齢者になっても「生きがい」には困らないだろうと安心します。自分の気持ちひとつあれば、何歳からでも新しいことは始められます。これまでのしがらみから解放され、自分が本当に好きなことを見つけて思いきり楽しんで、そんないきいきとした高齢者はたくさんいます。なにかを熱心に愛好することが生きる力につながっていると考えると、この超高齢社会で楽しく生きていくには、「推し活」こそ大事なのかもしれません。

(久保 (川合) 南海子 『「推し」の科学』より)

問一 本文中からは次の一文が抜けている。本文に入れるにはどこが最も適当か。本文中の《1》《5》のうちから一つ選び、番号で答えよ。

それは思うほどたやすいことはありません。

問二 本文中の「推し」の真髄 について、これはどういうことか。その説明として最も適当なものを、本文中から十六字で抜き出し、はじめの五字で答えよ。

---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

問三 本文中の「推し」対象に向かつて直接的になされるもの について、「推し」に対して行う直接的なアクションの例として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 「推し」に関係する知識を集めていく中で、今まで興味の無かった分野にも関心を持ち、自己の見識を広げること。
- 2 「推し」の誕生日を祝うために、ケーキやプレゼントを他のファンと持ち寄って、推し不在の誕生日会を開くこと。
- 3 「推し」の姿を忠実に再現した衣装を着て、口調や台詞などを真似ることにより、推しになった気分を感じること。
- 4 「推し」に対する想像を膨らませて、「推し」の登場するオリジナルの物語を創作し、仲間と共有して楽しむこと。
- 5 「推し」のぬいぐるみを作成し、自分と一緒に写った写真を撮って、「推し」に送るファンレターに同封すること。

問四 本文中の波線部1～5の語句のうちで、他の四つと品詞が異なるものを一つ選び、番号で答えよ。

問五 本文中の「推し」とは、『お守り』について、これはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 「お守り」が、過去の経験と結びつくことによってお守りとしての役割を持つように、「推し」も、相手と自分の過去に共通点を見つけ出すことで「推し」になるということ。
- 2 「お守り」が、それを通じて信仰する対象である大いなる何かを感じるものであるように、「推し」も、対象ではなくその奥に映し出されているものに意味があるということ。
- 3 「お守り」が、人の気持ちが投影されることで意味を持つてお守りとして機能するように、「推し」も、自分の中にある何かが投影されることによって意味を持つということ。
- 4 「お守り」が、意味を理解していない人が見ても他のものと全く区別がつかないように、「推し」も、対象に興味がない人には他者が投射しているものが見えないということ。
- 5 「お守り」が、長い時間を共にすることで他者には分からない意味を持ち徐々に「お守り」になるように、「推し」も、長い時間をかけて対象への愛が深まっていくということ。

二

次の各問に答えよ。

問一 次の傍線部の漢字の読みを、平仮名で書け。

人目を欺くような行動をとったことを、心から陳謝した。

問二 次の傍線部に適当な漢字をあて、楷書^{かいしょ}で書け。

かいらん板に、地域行事の日程がのびることが記載されている。

岩手県に住む高校三年生の伊智花^{いか}は、一年前に亡くなった祖母が好きだった不動の滝の絵を描き、絵画コンクールに出展しようとしている。この三月に東日本大震災が起き、四月末にようやく新学期が始まった。次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

七月のある日、顧問のみかちゃんが一枚のプリントを持ってきた。

「やる気、ある？」

みかちゃんは、懇願のような謝罪のような何とも複雑な表情をしていた。そのプリントには（絵画）で被災地に届けよう、絆^{きずな}のメッセージが（がんばろう岩手）と書いてある。

「これは」

「教育委員会がらみの連盟のほうでそういう取り組みがあるみたいで、高校生や中学生の油絵描く子たちに声をかけてるんだって。伊智花、中学の時に賞獲^とってるでしょう。その時審査員だった連盟の人が、伊智花に名指しでぜひ描かなくて学校に連絡があつて」

「はあ」

「県民会館で飾って貰^{もら}えるらしいし、画集にして被災地にも送るんだって」

「被災地に、絵を？」

「そう」

「絆^{きずな}って、なんなんですかね。テレビもそればかりじゃないですか」

「支え合うこと、っていうか」

「本当に大変な思いをした人に、ちよつと電気が止まったくらいわたしが『応援』なんて、なにをすればいいのかわかんないですよ」

「そうだね、むずかしい。でも絵を描ける伊智花だからこそ、絵の力を信じている伊智花だからこそできることもあるんじゃないか、って、わたしは思ったりもするのよ」

「じゃあ、何を描けば」

「鳥とか、空とか、花とか、心が安らぐような、夢を抱けるような、希望や絆^{きずな}があつて前向きなもの、って、連盟の人は言った」

「……描いた方がいいですか」

「描いた方が、いろいろと、いいと思う、かな」

それから私は不動の滝の絵を描きながら、〈心が安らぐような、夢を抱けるような、希望や絆があつて前向きなもの〉のことを考えた。虹や、双葉が芽吹くようなものは、いくらなんでも「希望つぽすぎる」と思つてやめた。

X

、内陸でほとんど

被害を受けていない私が何を描くのもとても失礼な気がした。考えて、考えて、結局締切りぎりぎりになって、通学の道中にあるニセアカシアの白い花が降る絵を描いた。その大樹のニセアカシアは、毎年本当に雪のように降る。あまりの花の多さに、花が降るたびに顔をあげてしまう。顔をあげるから前向きな絵、と思つたが、花が降るのは不謹慎だろうか、と描きながら思つて、まぶしい光の線を描き足し、タイトルを「顔をあげて」とした。みかちゃんは「これは、すごいわ」と言つてその絵を出展した。私の絵は集められた絵画の作品集の表紙になった。その作品集が被災地に届けられ、県民会館で作品展が開かれるとなつたら新聞社が学校まで取材に来た。

「〈顔をあげて〉このタイトルに込めた思いはなんですか？」

と、若い女性の記者はまぶしい笑顔で言う。あ。絵じやないんだ。と思つた。枝葉のディテールや、影の描き方や、見上げるような構図のことじやないんだ。時間がない中で、結構頑張つて描いたのにな。取材に緊張してこわばるからだから、力がすいっと抜けていく感覚がした。この人たちは、絵ではなくて、被災地に向けてメッセージを届けようとする高校生によるこんでいるんだ。そう思つたら胃の底がぐつと低くなつて、からだにずっしりとした重力がかかつているような気がしてきた。記者はいますぐ走り書きができるようにペンを構えて、期待を湛^たえてこちらを見ている。

「申し訳ない、というきもちです。わたしはすこしライフラインが止まつたくらいで、たくさんものを失つた人に対して、絆なんて、がんばろうなんて、言えないです」

記者は「ンなるほど、」と言つてから、しばらくペンを親指の腹と人差し指の腹でくくに触り、それから表紙の絵を掲げるようにして見て、言つた。

「うーん。でも、この絵を見ると元気が湧いてきて、明るい気持ちになつて、頑張ろうつて思えると思うんですよ。この絵を見た人にどんな思いを届けたいですか？」

「そういうふうに、思つてもらえたら、うれしいですけど」

私は、早く終わつてほしい、と、そればかり考えていた。描かなければよかったと、そう思つた。そのあと、沿岸での思い出

はあるか、将来は画家になりたいのかどうかなど聞かれて、私はそのほとんどを「いえ、とくに」と答えた。そばにいたみかちゃんは手元のファイルに目線を落として、私のほうを見ようとしなかった。記者が来週までには掲載されますので、と言いなから帰って行って、私は、みかちゃんとふたりになった。深く息を吐き、吸い、「Yです」と、まさに言おうとしたそのとき、

「このさ、見上げるような構図。木のでっぺんから地面まで平等に、花が降っているところがすごい迫力なんだよね。光の線も、やりすぎじゃないのにちゃんと光として見える、控えめなのに力強くてさ。伊智花の絵はすごいよ。すごい」

と、みかちゃんはしみじみ言った。

「そう、なんですよ。がんばりました」

と答えて、それが涙声になっているのが分かって、お手洗いへ駆け込んで泣いた。悔しいよりも、うれしいが来た。私はこの絵を見た人に、そう言われたかったのだ。

それからの一カ月間、私は不動の滝の絵を力いっぱい描いた。同級生や親戚から「新聞見たよ」と連絡が来て、そのたびに私は滝の絵に没頭した。

〈この絵を見て元気が湧いたり、明るい気持ちになって、頑張ろうって思ってもらえたらうれしいです。と、加藤伊智花（いちか）さん（盛岡大鵬高等学校三年）は笑顔を見せた。〉

と、その記事には書かれていた。ニセアカシアの絵のことを考えるとからだも頭も重くなるから、私は滝の絵に没頭した。光をはらんだ水しぶきに筆を重ねるごとに、それはほとぼしる怒りであるような心地がした。流れる。流れる。流れる。念じるように水の動きを描き加える。この心につかえる黒い靄をすべて押し流すように、真っ白な光を、水を、描き足した。亡くなった祖母のことや賞のことは、もはや頭になかった。私は気持ちを真っ白に塗りなおすように、絵の前に向かった。

描き終えて、キャンバスの前に仁王立ちする。深緑の森を真っ二つに割るように、強く美しい不動の滝が、目の前に現れていた。滝だった。私が今までに描いたすべての絵の中でいちばん力強い絵だった。「怒濤」と名付けて、（どとう） 展した。

（くどうれいん 『氷柱の声』より）

※ デイテール……全体の中の細かい部分。細部。

問一 本文中の「被災地に、絵を？」について、このように言うのはなぜか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 「絵を送る」ことで被災した人たちを元気づけようという取り組みに疑問を感じるうえに、画力の未熟な一高校生に過ぎない自分に、被災地に送るのにふさわしい絵が描けるのか自信が持てないから。
- 2 「絵を送る」ことで被災した人たちを元気づけたいという顧問の先生の話を聞いて、今まで誰も思いつかなかった素晴らしい提案だと感心し、美術に携わる者としてぜひとも協力したいと思ったから。
- 3 震災で大きな被害を受けた人に対して「絵を送る」ことで、失ったかつての環境を想起させるおそれがあるのではないかと思うので、かえって残酷な結果につながりかねないと不安に感じているから。
- 4 震災で大きな被害を受けた人に前向きになってもらうには、「絵を送る」取り組みに参加することが、絵の力を信じている自分にしかできない効果的な方法だと確信し、それにやりがいを感じているから。
- 5 震災で大きな被害を受けた人に「絵を送る」という取り組みについて、その意向に沿った作品を描くよう求められていることがわかり、自分にはその資格がないのではないかと引け目を感じているから。

問二 本文中の X に入る最も適当な語句を、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 きつと
- 2 そもそも
- 3 まさか
- 4 どうせ
- 5 おそらく

問三 本文中の あ。絵じゃないんだ について、ここから読み取れる心情を説明したものとして最も適当なものを、次の1～

5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 被災地を応援する前向きなタイトルだけを称賛し、絵については取るに足りないものだと言わんばかりの取材態度に対し、見くびられたと感じている。

2 作品集の表紙に選出されたという事実だけを重視し、この絵について記者自身は特に何の感想も抱いていない不誠実さに対し、怒りを覚えている。

3 絵のタイトルだけに注目し、この絵を描くにあたってどれだけ努力したかについては焦点を当てようとしないうことに対し、当てが外れたと思っている。

4 被災地を応援する高校生らしさだけを求め、絵を描く技術や作画上の工夫については焦点を当てようとしないうことに対し、違和感を覚えている。

5 明るさを表現するための工夫だけを評価し、最も苦心した絵の題材の選び方については焦点を当てようとしないうことに対し、失望している。

問四 本文中の 胃の底がぐつと低くなつて、からだにずっしりとした重力がかかっている について、これはどういうことか。

最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 描いた絵そのものについて話そうと思っていたのに見当違いの質問をされたうえ、記者の思惑通りの発言を期待されているようにも感じられるので、不快に感じているということ。

2 質問の「タイトルに込めた思い」について深く考えたことがなかったため、この取材に関する記事を読む人たちがどう答えたなら満足するのか見当がつかず戸惑っているということ。

3 自分でも「花が降る」という題材が不謹慎なのではないかと案じ、それを紛らわすためにつけたタイトルに過ぎないので、自分の浅慮を暴かれるのを不安に感じているということ。

4 新聞記者にインタビューされるといっただけでも緊張するのに予想外の内容を尋ねられて困惑したうえ、それについて何と答えていいかわからず、自己嫌悪に陥っているということ。

5 被災地の人を思つて描いた絵そのものではなく、被災地を支援しようとする理想的な高校生として新聞記者が自分をもてはやそうとするので激しい苛立ちを感じているということ。

問五 本文中の しばらくペンを親指の腹と人差し指の腹でくにくに触り について、この動作から記者のどのような様子が読み取れるか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 被災した人を慮る真摯な返答を聞き、絵が表紙に選ばれたことを喜んでいるだろうと笑顔で質問した自分の態度を反省する様子。

2 予想していたよりはるかに具体的な返答に身構え、取材相手が高校生だからといって侮ってはならないと緊張している様子。

3 期待していたのとまったく異なる返答に困惑し、取材の意図に沿うような発言をどうやって引き出そうか思索している様子。

4 ライフラインが止まったと聞き、この絵を描いた高校生も震災で被害を受けているのだと自分の質問の浅はかさを悔いる様子。

5 震災で被害にあった高校生らしい返答に満足し、より深みのある記事にするには次にどんな質問をすべきか悩んでいる様子。

問六 本文中の そばにいたみかちゃんは手元のファイルに目線を落として、私のほうを見ようとしなかった について、「みかちゃん」がこのようにするのはなぜか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 取材に対する伊智花の様子から、世間の人が思っているほど伊智花自身はニセアカシアの絵を気に入っていないことがわかり、疑念を抱いているから。

2 取材に対する伊智花の受け答えから、伊智花が将来画家になることを目指しているわけではないとわかり、才能があるのにもっていないと思ったから。

3 取材に応じる伊智花の言葉から、被災地を応援するには何を描いたらいいか悩み抜いて答えを出したことがわかり、伊智花の成長を頼もしく思ったから。

4 取材に応じる伊智花の態度を見て、あまりにも投げやりな言動が多く、熱心に質問する記者に対して失礼に当たっているのではないかと不安に駆られたから。

5 取材に対する伊智花の受け答えを聞いて、取材の内容を不本意なものに感じている伊智花の気持ちを察したこと、いたたまれない気持ちになったから。

問七 本文中の Y に当てはまる語句を、本文中から十字で抜き出し、はじめと終わりの二字で答えよ。

---	---	---	---	---	---
-----	-----	-----	-----	-----	-----

問八 本文中の そう言われたかった について、これはどういうことか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 自分の描いた絵を、完成までにどれだけ時間を要したかを高く評価して褒めてほしかった、ということ。
- 2 自分の描いた絵を、描かれた経緯抜きに「絵画」としての観点からのみ評価されたかった、ということ。
- 3 自分の描いた絵を、被災者を応援する趣旨に合致するかどうかについて評価されたかった、ということ。
- 4 自分の描いた絵を、専門家にしかわからない作画技術の観点から高く評価してほしかった、ということ。
- 5 自分の描いた絵を、どれだけ多くの人を感動させられたかという点で評価してほしかった、ということ。

問九 本文中の 私は滝の絵に没頭した について、滝の絵に没頭することですうしうとしているのか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 本来コンクールに向けて不動の滝の絵を制作しているはずだった時間を、ニセアカシアの絵のために使ってしまったので焦りを感じ、一刻も早く切り替えて滝の絵に集中しようとしている。
- 2 取材を受けたことについて何度も声をかけてくる同級生や親戚にうんざりしているので、滝の絵に没頭する姿を見せつけることで集中している様子を示し、これ以上干渉されないようにしている。
- 3 不動の滝は亡き祖母を思い出させる題材なので、作画に集中することで祖母との思い出が一層鮮明になるように感じられるため、湧き上がったイメージを一つ残らず描き込もうとしている。
- 4 取材の際に自分の思いとは違った明るく前向きな内容にまとめられてしまったことと、それを自分の言葉として記事にされてしまったことに対する憤りを滝の絵にぶつけ、忘れようとしている。
- 5 自分が本来描きたかったわけではない被災地を応援するための絵を、思いがけず顧問の先生がほめてくれたことに感謝し、次のコンクールでは好成績を収めて先生の恩に報いようとしている。

四

次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

昔、吉野山の日藏※にちざうの君、吉野の奥※おくに行ひ歩き給ひけるに、長七尺たけばかりの鬼、身の色は紺青こんじやうの色にて、髪は火のごとくに赤く、首細く、胸骨むねほねは殊ことにさし出いでて、いらめき、腹ふくれて、脛はざは細くありけるが、この行ひ人にあひて、手をつかねて泣く事限りなし。

「これは何事する鬼ぞ」と問へば、この鬼涙にむせびながら申すやう、「我は、この四五百年を過ぎての昔人にてさうらひしが、人のために恨みを残して、今はかかる鬼の身となりてさうらふ。さてその敵かたきをば、思ひのごとくに取り殺してき。それが子孫※ひこ、曾孫※やしはこにいたるまで、残りなく取り殺し果てて、今は殺すべき者なくなりぬ。されば、なほ彼らが生まれ変はりまかる後までも知りて、取り殺さんと思ひさうらふに、次々の生まれ所、つゆも知らねば、取り殺すべきやうなし。瞋恚※しんいの炎は、同じやうに燃ゆれども、敵の子孫は絶え果てたり。我一人、尽きせぬ瞋恚の炎に燃えこがれて、せん方なき苦はたをのみ受け侍り。かかる心を起こさざらましかば、極楽、天上にも生まれなまし。殊に恨みをとどめて、かかる身となりて、無量億劫※おんじふの苦を受けんとする事の、せん方なく悲しくさうらふ。人のために恨みを残すは、しかしながら、我が身のためにこそありけれ。敵の子孫は尽き果てぬ。我が命はきはまりもなし。かねてこのやうを知らましかば、かかる恨みをば残さざらまし」と言ひ續けて、涙を流して泣く事限りなし。その間にうへより炎やうやう燃え出でけり。さて山の奥さまへ歩み入りけり。さて、日藏の君あはれと思ひて、それがために、さまざまの罪滅ぶべき事どもをし給ひけるとぞ。

(『宇治拾遺物語』より)

- ※ 日藏の君……平安中期の真言密教の僧。山中で修行をする修験道の道者。
- ※ 行ひ……仏道の修行。また、勤行。しんぎやう ※ いらめき……いらいらしている様に見える。
- ※ 曾孫……孫の子。ひまご。 ※ 玄孫……曾孫の子。
- ※ 瞋恚の炎……燃え上がる炎のような激しい怒りや憎しみ、または恨み。
- ※ 無量億劫……はかり知れないほどきわめて長い時間。

問一 本文中の さうらふ を現代仮名遣いに改めて平仮名で答えよ。

問二 本文中の つゆも知らねば、取り殺すべきやうなし の現代語訳として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 全く知らないで、取り殺すことができません。
- 2 全く知らないで、取り殺す必要があります。
- 3 全く知らないならば、取り殺す必要があります。
- 4 露さえも知らないで、取り殺す必要があります。
- 5 露さえも知らないならば、取り殺すことができません。

問三 本文中の せん方なき苦 について、これはどのような苦しみか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 敵の子孫はいなくなってしまったのに、自分だけがわけもなく生き残って、孤独になっっていることに対する苦しみ。
- 2 敵やその子孫に対する強い恨みが激しい炎となって自分の身体を取り巻き、熱く燃え続けていることに対する苦しみ。
- 3 敵の子孫を殺すという目的を果たし、他にやることなく、新たな生きる目的を見つけられないことに対する苦しみ。
- 4 敵の子孫は絶えてしまったが、敵に対する恨みは尽きず、どうしようもない怒りがたまっていることに対する苦しみ。
- 5 敵やその子孫たちが生まれ変わるのを、何もすることなく、長い間待っていないなければならないことに対する苦しみ。

問四 本文中の 我が身のためにこそありけれ とはどういうことか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 自分が相手を恨んでいたつもりが、実際は、自分が相手に恨まれていたということ。
- 2 人に恨みを残すことは、まわりまわって結局、自分にかえってくるものだということ。
- 3 人を憎く思う気持ちが消えない原因は、全て自分自身の中にだけあったということ。
- 4 人を恨んで殺そうとするばかりでなく、自分を大切にする必要があったということ。
- 5 人を恨んで殺してしまうのは、相手が悪いのであって自分のせいではないということ。

問五 本文中の かねてこのやうを知らましかば、かかる恨みをば残さざらまし の現代語訳として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 もし生まれ変わっても敵を全て殺し尽くすことができないと前もって知っていたら、敵に対する恨みは残さなかっただろうに。
- 2 もし敵の子孫が尽き果てても自分は死ぬことができないと前もって知っていたら、鬼に対する恨みは残さなかっただろうに。
- 3 もし鬼の姿になってしまい人間に戻ることができないと前もって知っていたら、敵の子孫に対する恨みは残さなかっただろうに。
- 4 もし殺しすぎたせいで敵の子孫が尽き果ててしまうと前もって知っていたら、敵の子孫に対する恨みは残さなかっただろうに。
- 5 もしはかり知れないほど長い間苦しまなければならないと前もって知っていたら、敵に対する恨みは残さなかっただろうに。

問六 本文中の やうやう の意味として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 一気に
- 2 ほんの少し
- 3 だんだん
- 4 めらめらと
- 5 激しく

問七 本文中の 日蔵の君あはれと思ひて の説明として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 日蔵上人は、敵の子孫がいなくなった後も死ぬことができずにいる鬼を気の毒に思っている。
- 2 日蔵上人は、敵だけでなく無関係な敵の子孫たちまで殺した鬼を懲らしめようと思っている。
- 3 日蔵上人は、次々と人を殺した罪で死ぬことができず泣いている鬼を情けないと思っている。
- 4 日蔵上人は、次々と人を殺してまったことを後悔し詫^わびている鬼をすばらしいと思っている。
- 5 日蔵上人は、敵への恨みを残したままでもうすぐ死んでしまう鬼をかわいそうに思っている。

問八 本文の出典『宇治拾遺物語』は鎌倉時代初期に成立した作品である。これと同じく鎌倉時代に成立した作品を、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 枕草子
- 2 奥の細道
- 3 源氏物語
- 4 方丈記
- 5 竹取物語